



「自分の可能性」

2学期の期末テストが終わりました。「できた!」と満足している人もいるでしょう。「もっと、勉強しておけば…」と思っている人もいるでしょう。これから、答案が返ってきたらしっかりと見直しをして、今後のテストに備えましょう。テストの終わったあとの見直し、確認が一番勉強の力が付くところです。特に3年生は、「この問題が入試に出たら…」と考えて見直しをしましょう。

さて、今回は、「自分の可能性」について話します。

今、目の前にある勉強や部活、友達との関係。「うまくいかないな」「大変だな」と感じることもあるでしょう。でも、その一つひとつが、みなさんの未来をつくる大切な経験です。

「失敗は成功のもと」という言葉があります。ホンダ創業者の本田宗一郎さんは「成功したのは1パーセント、残りの99パーセントは失敗の連続だった」と語っています。失敗を恐れず、むしろ「次はどうすればうまくいくか」と考えることが、成長のチャンスになります。

自分の得意なこと、好きなことに「なぜだろう?」という好奇心を持って、どんどん挑戦してみてください。たとえ、結果が出なくても、その挑戦の過程で得た経験や出会いは、必ず未来の自分を助けてくれます。

みなさんの人生は、みなさん自身が舵をとる船です。失敗を恐れず、自分を信じて、広い世界へ希望を持って進んでいってください。応援しています。



平和について、考えよう

11月9日の日曜日に行われた令和7年度三豊市戦没者追悼式において、三豊中学校生徒会長の近藤葵さんが、平和作文を堂々と朗読しました。内容も素晴らしかったので、紹介します。みなさんも、平和について考えてみましょう。

日本は今年、終戦八十年を迎えました。多くの人々の尊い命を奪った戦争から八十年の月日がたったのです。戦争経験者の平均年齢は八十六歳を超え、戦争の記憶を次の世代へ受け継ぐことが困難になってきていると言われています。

私は今年の夏、善通寺市にある護国神社を訪れました。この神社はさぬきの宮とも呼ばれていて、戦没者の英霊がまつられています。境内には史料館があり、旧軍に関する戦争遺品の一部が展示されています。たくさんさんの戦争遺品の中で、私が一番興味を持ったのは、父から子どもにあてて書かれた遺書でした。内容は、「元氣か? お母さんの言うことを聞いているか?たくさん食べて大きくなれ!」などといった、たわいもない親子愛あふれる文章でした。しかし、どこかさみしい文章もところどころ書かれており、最後には「サユナラ」と書かれてありました。ほかにもたくさんさんの名前が書かれた日章旗や戦没者の写真が掲示されていました。私は掲示されている遺品を見ていると、この人たちがどれほど無念だったんだろうかと胸が痛みました。

それだけではなく、戦争から生きてかえって来られた方や残された遺族の方々の戦争は一九四五年の八月十五日の終戦の合図では終わらなかったのです。戦争から立ち直れなかった人々の中にはたくさんいて、戦争は命を奪っただけでなく、そういった人々の未来までも奪ってしまいました。

私たち中学生は実際に戦争を経験していません。私たちの使命は戦争を歴史の暗闇に隠すのではなく、戦争を知り、そして次の世代へ引き継いでいくことです。戦争によって尊い命を落とした人々の無念で悲惨な思いを少しでも多く後世に残していくことで、日本はもう二度と、戦争という過ちをおかさないでしょう。しかし、今でも世界には戦争という非道な戦いを続けているところがあります。戦争が生むのは無差別な殺戮と無意味な負の連鎖です。私たちのもう一つの使命は、今起こっている戦争を終わらせ、平和の尊さを誰もが実感する世界になるようにと祈り、そのために実行していくことだと私は思います。私は、戦争経験者の人々が語りついできてくれた戦争の記憶を、記憶で終わらせないように、これからも努力したいと思っています。平和な世界が一日でもはやく、この地球におとされるよう、祈り続けたいと思います。